

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

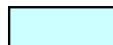
建物名称	九州技研実験棟建設工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	-------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.1 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.7 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_20164(v.4.01)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.2
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 2.8 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.4
<自由記述>	<自由記述>
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.8
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア 4
<自由記述>	<自由記述>
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 1.7
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 2
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.78 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: — 0.78 外構緑化指数 建物緑化指數
<自由記述>	%



: 入力欄

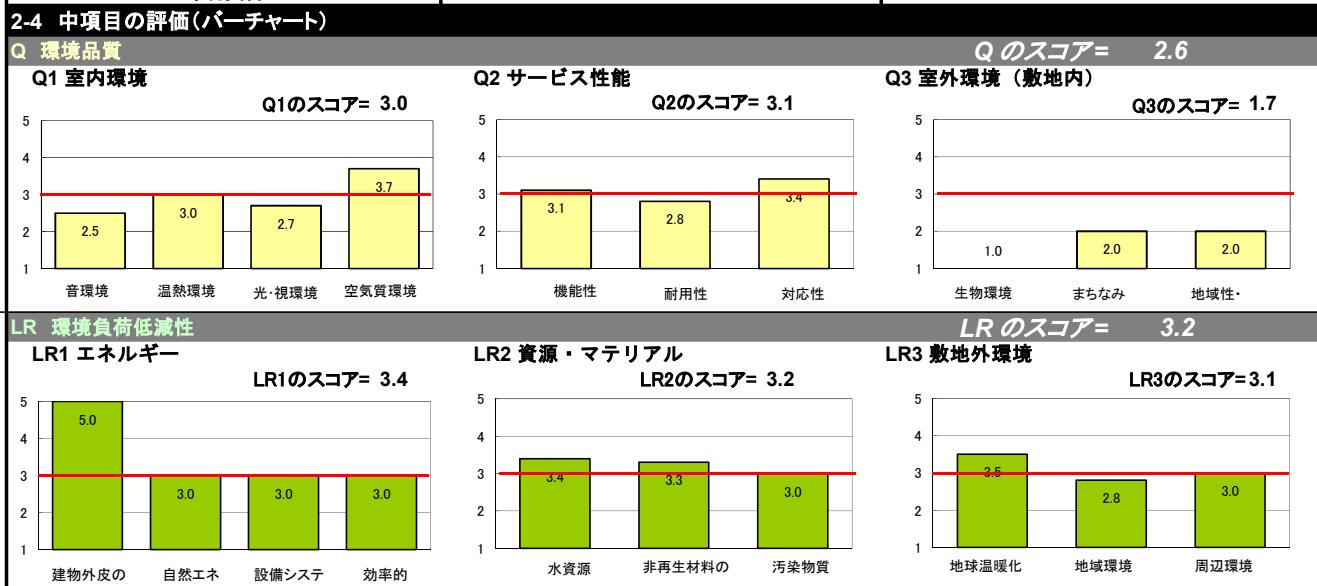
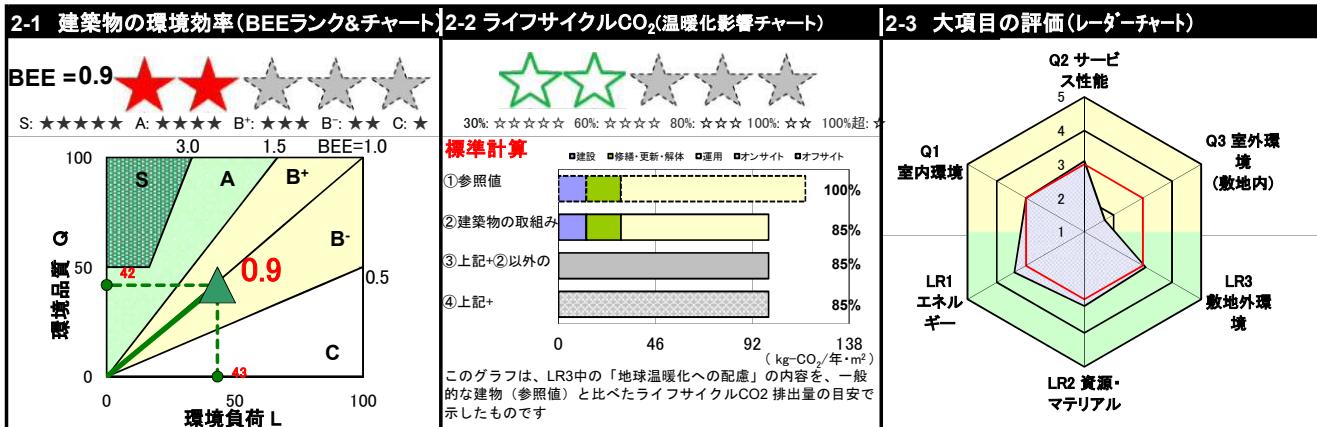


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九州技研実験棟建設工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市戸畠区大字中原46	構造	RC造
用途地域	法22条地域、市街化区域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2022年10月17日
敷地面積	3,807 m ²	作成者	高山 繁憲
建築面積	1,665 m ²	確認日	2022年10月20日
延床面積	2,782 m ²	確認者	高山 繁憲



3 設計上の配慮事項		その他
総合		特になし
日本製鉄内の実験棟。省エネルギー設備にて計画した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
照明は最低限の照度を確保するにとどめ、換気は必要最小限の換気量とした。 建材について、ほぼ全面にF★★☆☆☆を採用。	天井高2.7m以上と快適性に配慮。	階高3.9m以上とゆとりをもたせている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
特になし。	節水型便器の採用や、再利用部材(LGS、OAフロア等)を採用し、環境に配慮した。	特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
九州技研実験棟建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目							
Q 建築物の環境品質							2.6
Q1 室内環境				0.40			3.0
1 音環境			2.5	0.15			2.5
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40			
1.2 遮音			1.8	0.40			
1 開口部遮音性能			1.0	0.60			
2 界壁遮音性能			3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-			
1.3 吸音			3.0	0.20			
2 溫熱環境			3.0	0.35			3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50			
1 室温			3.0	0.38			
2 外皮性能			3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38			
2.2 湿度制御			3.0	0.20			
2.3 空調方式			3.0	0.30			
3 光・視環境			2.7	0.25			2.7
3.1 昼光利用			3.0	0.30			
1 昼光率			3.0	0.60			
2 方位別開口			-	-			
3 昼光利用設備			3.0	0.40			
3.2 グレア対策			2.0	0.30			
1 昼光制御			2.0	1.00			
3.3 照度			3.0	0.15			
3.4 照明制御			3.0	0.25			
4 空気質環境			3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.50			
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00			
4.2 換気			3.6	0.30			
1 換気量		開口面積:1/15以上	3.0	0.33			
2 自然換気性能			5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33			
4.3 運用管理			3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50			
2 喫煙の制御			3.0	0.50			
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.1
1 機能性			3.1	0.40			3.1
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40			
1 広さ・収納性			3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33			
3 パリアフリー計画			3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性			3.5	0.30			
1 広さ感・景観		天井高2.7m以上 窓設置あり	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			3.0	0.50			
3 内装計画			-	-			
1.3 維持管理			3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性			2.8	0.30			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数			2.8	0.30			
1 軸体材料の耐用年数			3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にc以上を使用	4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20			
2.4 信頼性			2.6	0.20			
1 空調・換気設備			3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3 電気設備			3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5 通信・情報設備			1.0	0.20			

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	3.4 4.6 5.0 4.0 3.0 3.0	0.30 0.30 0.60 0.40 0.30 0.40	- - -	- -	3.4
	1 階高のゆとり	3.9m以上	5.0 4.0 3.0 3.0	0.60 0.40 0.30 0.40	- -	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.12	4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.40 0.30 0.20 0.20 0.10 0.20	- -	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	- -	
	3.3 設備の更新性	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	- -	
	1 空調配管の更新性	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	- -	
	2 給排水管の更新性	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	- -	
	3 電気配線の更新性	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.10 0.10 0.20 0.20 0.30 0.30	- -	
	4 通信配線の更新性	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.10 0.10 0.20 0.20 0.30 0.30	- -	
	5 設備機器の更新性	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.30 0.40 0.40	- -	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.30 0.40 0.40	- -	
Q3 室外環境(敷地内)	-	-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出	-	-	1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮	-	-	2.0	0.30	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	2.0	0.50	-	2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	-	2.0	0.50	-	2.0
LR 建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー	-	-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm:0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEIm:0.80	3.0	0.50	-	-	3.0
4 効率的運用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル	-	-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護	-	3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	省水型便器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	-	3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	磁器質タイル	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS、OAフロア採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	-	3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境	-	-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2 85%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮	-	2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止	燃焼機器不使用	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	-	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	-	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	